

ミクロネシアの旗

第 6 部 核の時代 2

2006.1.28

札幌たのしい授業・研究サークル用レポート

仮説実験授業研究会・北海道・丸山秀一

[C]Maruyama Shuichi

ミクロネシアは、信託統治領となっても、その実態は軍事基地であり軍政の継続でした。1954 年の水爆実験は、島民や福竜丸に放射線被害をもたらしましたが、その後も核実験は続けられました。

【問題】

繰り返される核実験による放射線の影響について、米国両院合同原子力委員会放射線小委員会は、1957 年 6 月に結論を出しました。その内容はどんなものだったと思いますか。

予想

- ア 放射線を出さない「きれいな水爆」に移行すべし
- イ 核実験の総量規制が必要
- ウ 核実験停止が必要
- エ 核実験による放射線は危険ではない

■死の灰汚染

委員会の結論は、「これまでの核実験によって北部温暖地域は死の灰でひどく汚染されている。このため年間 10 メガトン以上の核実験を行ってはならない。低レベル放射線の影響に関する確実なデータが欠落している現状では、人間の健康に対する閾値（確実に安全であるとする値）を設定できない。〈きれいな水爆〉は技術的に不可能であるから、米国は大型核実験を停止すべき」というものでした。

群馬大学教授も「日本人全員が死の灰の影響を受けている」と発表しました。実際、日本人の尿 1 リットルとサツマイモからは 20cpm、タマネギからは 6cpm の放射線が計測されていました。

しかし、米ソ英仏の核保有国は、核実験をやめることはなく、ε 0 回の核実験を繰り返しました。

米国原子力委員会のテラーは、「核実験停止は、〈きれいな核兵器〉の開発を妨げる。〈きれいな核兵器〉を使えば、地下資源の採掘など平和利用も可能」であるとし、アイゼンハワー米大統領も「あと四～五年実験を続ければ、完全に〈きれいな水爆〉を製造できる」と断言しました。これに対し、ソ連のフルシチョフ首相



は「馬鹿げたことだ。汚いことをするのに、〈きれいな爆弾〉を使うなんて」と述べました。

フルシチョフ

1953年にソ連共産党第1書記となったフルシチョフは、56年の第20

回党大会でスターリン批判をおこない、58年には首相にも就任した。フルシチョフは米ソ共存外交を展開したが、他方では中国との対立を深め、64年、農業政策など政治的失敗の責任を問われて失脚した。写真は、59年9月に訪米した際、ニクソン副大統領(当時)と会談するフルシチョフ。

UPI / THE BETTMANN ARCHIVE

Microsoft(R) Encarta(R) 2006. (C) 1993-2005 Microsoft Corporation. All rights reserved.

【問題】

1957年3月、国会は「原爆医療法」を制定、被爆者に対する国の医療給付がようやく始まりました。これは、「被爆者と認定されると、被爆者手帳が交付され、医療費が援助される」というものでした。

では、この法律により、第5福竜丸乗組員のような「戦後の被爆者」は、どのように扱われたと思いますか。

予想

- ア 原爆による被爆者と同様に扱われた
- イ 原爆による被爆者以上に厚遇された
- ウ 原爆による被爆者より冷遇された
- エ 対象とはされなかった

■原爆医療法

この法律の正式名称は「原子爆弾被害者の医療等に関する法律」で、その名称の通り、福竜丸乗組員のような水爆による被爆者は、全くの対象外でした。つまり、広島・長崎での被爆者のみを対象としたものだったのです。当初あった「生活補助も含む」、「すべての被爆者を対象とする」という考えは、政府が提出した案からは、なくなっていたのです。その結果、福竜丸乗組員は、法的には、現在も「被爆者」では、ないのです。

この法律が、対象を「広島、長崎の被爆者」に限定した理由は、すぐに推察できました。その年、東海村原子力発電所は、日本で初めて臨界に達しました。世界で最小の原子力発電所でしたが、アジアでは、インドに次いで二番目のものでした。そして、それからの原発事故で、多くの被曝者が生じましたが、その人たちも、みな、法的には「ヒバクシャ」ではないのです。

【問題】

核実験のため、ミクロネシアのロンゲラップ住民が強制的に移住させられてから、3 年がたっていました。住民たちは、帰島を強く望んでいましたが、ロンゲラップ島の放射能は、まだ危険レベルでした。

では、米原子力委員会は、住民たちの帰島を認めたと思いますか。

予想

- ア 島の放射性物質を除去して帰島させた
- イ そのまま帰島させた
- ウ 帰島を認めなかった
- エ そのほか



Rongelap

<http://www.oceandots.com>

■変わり果てた故郷

1957年6月、ロンゲラップ住民は3年ぶりに帰島しました。かつての家は、すべて破壊されており、米軍がバラックを建てていました。動植物には異常が見られ、住民は「島で採れるものを食べないように」と言われました。つまり、島には、まだ放射性物質がたくさん残っていたのです。

米原子力委員会が帰島を認めた理由には、「これからの放射性物質の広範な使用ゆえ、人間に対する放射線による影響についての知識がさらに必要とされる。ロンゲラップの放射能汚染が安全程度だとしても、その放射能レベルは世界のいかなるところよりも高い。その島に人間が住むことは、最も価値あるデータを提供することになるであろう。さらに同じ社会環境で暮らす非被爆者の島民もいて、絶好の比較研究ができる」というものだったのです。

そして原子力委員会は、被曝してゆく住民の体内放射性物質の量の測定を続けました。ロンゲラップ住民は、公害などの影響を受けない「最適の実験体」であったというわけです。

また加工食品に頼る生活は、島民の自給自足の生活を破壊していきました。

帰島の1年後、ロンゲラップに文化人類学者と原子力委員会が訪れました。住民たちの残留放射能の影響の訴えに対して、訪問者は「この島の土にはもはや放射線は存在しない。もし放射線があったなら、あななたちはここへ戻ることはできなかった」と述べました。

【問題】

さて、1957 年には、ミクロネシアを統治している米国内務省が、統治方針を出しました。そこに書かれた「統治目的」の一番はなんだったと思いますか。

予想

- ア 国際平和への寄与
- イ 住民の独立
- ウ 経済開発
- エ そのほか



ロンゲラップ環礁地方政府章（現在）

■「国際平和」

ミクロネシア統治目的は、次のようなものになっていました。

- ① 国際平和と安全保障の維持への寄与
- ② 自治と独立へ向けての啓発
- ③ 経済開発と自給促進
- ④ 住民の社会的発達
- ⑤ 住民の教育開発
- ⑥ 差別撤廃と人権、基本的自由の確立

もちろん、米軍基地と繰り返される核実験が、米国の言う「国際平和への寄与」であり、日々それを実践してきたことは、これまで見てきたとおりです。

しかし、核実験による放射能汚染は確実に広がっていました。米上院死の灰公聴会は「死の灰の放射能が有害か無害か、ハッキリさせるべきだ。原子力委員会は〈核実験は人体に危害を加えない〉といっているが本当にそうなのか。原子力委員会は核兵器を発展させ、同時に核実験による被害を阻止しようとしている。ひとつの機関がそのような矛盾した機能を果たすことはできない。核実験禁止協定を結ぶことは、米ソ両国にとって利益がある」と結果報告しました。

これに対して、原子力委員会は「防衛努力を放棄することは、死の灰よりも恐ろしい危険を生み出す」として反論しました。そして、核実験は繰り返し繰り返し行われたのです。

科学者たちは、ラッセル・アインシュタイン宣言をきっかけに、パグウォッシュ国際科学者会議を開催し、「核実験は禁止すべき、放射性降下物が人類に及ぼす影響は計り知れない」との声明を出

しました。(この会議は 1995 年ノーベル平和賞受賞)

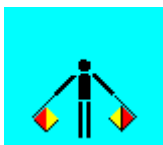
ラッセルは、市民運動として核兵器廃絶運動 (Campaign for Nuclear Disarmament=CND) も組織して、英国では連日デモが繰り返されました。この組織のシンボルがその後世界的に「ピースマーク」として知られることになるマークです。



by Steve Kramer

このマークは手旗信号の N
と D を組み合わせたもので、

「Nuclear Disarmament=核の武装解除」の意味です。



N



D

【問題】

核実験が続く中、日本は国連総会に「核実験停止決議案」を提出しました。では、その決議案は採択されたと思いますか。

予想

ア 採択された

イ 否決された

決議案に賛成した核保有国はあったでしょうか。

■スプートニク・ショック

日本提案の核実験禁止決議案は、核兵器保有国などの反対により、賛成 18、反対 32 で否決されました。核保有国は、それぞれ国連軍縮委員会で「核実験停止」を提案しましたが、それも合意に達することはありませんでした。ソ連では、核再処理工場が爆発し、30 万人が被爆する事故がありました。

米国が巨大な破壊力を持つ核兵器の開発へと進む中、ソ連は、小型の核ミサイルによる攻撃を戦略とし、すでに大陸弾道ミサイル (ICBM) の開発に成功していました。ダレス米国務長官は、かつて彼自身が提唱した「大量報復戦略」を撤回し「これからは各国が小型核兵器を持つようになる」と方針を転換しましたが、米国は ICBM の実験に失敗しました。その翌月の 10 月、ソ連は人類初の人工天体スプートニクの打ち上げに成功したのです。



スプートニク・ロケット

旧ソ連のスプートニクは、筒形の本体に 4 本のブースターをそなえた液体燃料ロケットで、全長 29m。1957 年 10 月 4 日に世界初の人工衛星(ロシア語でスプートニク)を軌道の上にのせることに成功

した。Sovfoto/Eastfoto/PNI

Microsoft(R) Encarta(R) 2006. (C) 1993-2005 Microsoft

この成功は、米国をパニックに陥れました。米国は「ソ連は、迎撃不可能な大気圏外からの核攻撃能力を得た」と判断したからです。それは、「ソ連が核ミサイルを発射したならば、迎撃不能で

30 分で米国に到達する」ということでした。

11 月には、ソ連は犬を載せたスプートニク 2 号の打ち上げにも成功しました。しかし、アイゼンハワーは「核技術では、米国はソ連に先行している」と述べていました。

ソ連は、米国に「核実験停止の首脳会議」を申し入れましたが、核武装で「劣っている」状態の米国は、それを受け入れることができませんでした。そして米国も ICBM を開発し、NATO も核弾頭の貯蔵を決めました。米ソ両国の ICBM の開発成功は、「核戦争になれば、世界が 30 分で滅びる」可能性を高めました。

【問題】

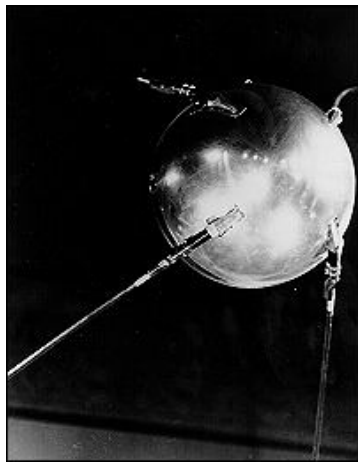
太平洋での米英の核実験に対して、日本政府は 1958 年 1 月、米英両国に漁業補償を請求しました。では、両国は賠償に応じたでしょうか。

予想

米国は () 英国は ()

- ア 賠償した
- イ 拒否した
- ウ 請求を無視した

スプートニク 1 号



■「水爆は間違いなく使われる」

米国も英国も、日本の賠償要求を無視し、なんら回答することがありませんでした。

そんなとき、前大統領のトルーマンは「当時米軍は関東上陸作戦を計画中であり、50万人の負傷と25万人の死者が見積もられた。だから我々は強力な新兵器（＝原爆）を使うことに良心の呵責は感じなかった。私は水爆が使われないことを希望するが、世界が大混乱に巻き込まれたら、水爆は間違いなく使われるだろう」と述べました。この発言に対し、広島県知事、広島市長、市議会などが「非戦闘員の大量殺戮する核兵器の使用は国際法違反であり、〈水爆が使われる〉という発言は全世界の世論に反するもの」と抗議しました。

トルーマンは抗議に対して、翌月次のように回答しました。「広島と長崎の犠牲は、日本と連合国の将来の福祉のためにせっぱ詰まった措置だった。もし日本が真珠湾に闇討ちをかけなかったら、このようなことはなかったのだ」

しかし、米原子力委員会の中心的科学者で水爆製造の第一人者であるテラーは、「原爆投下は誤りであった。米国は、まず日本国民に事前の警告を発した後、東京上空で威嚇用の原爆を爆発させ、降伏の最後通告を出せば良かったのだ」と述べました。

【問題】

「原爆投下の是非」が問われる中、アイゼンハワーは新たに「ミサイル用核弾頭の完成ときれいな水爆の開発」を目的とした「ハードタック作戦」と呼ばれる核実験に承認を与えました。それに

対して、ソ連は自国の核実験停止を宣言し、「これは米英が我々に習うことを期待して行う第一段階目の処置である。もし米英が実験を継続するなら、ソ連も別の措置をとらざるを得ない」と述べました。

ノーベル化学賞を受けたポーリングは、世界中の科学者から、「核実験反対」の嘆願書を集めて、国連に提出すると共に、米国連邦裁判所に、核実験停止を求める訴えをおこしました。(ポーリングは後にノーベル平和賞も受賞)

では、米国は核実験を停止したと思いますか。

予想

- ア 停止した
- イ 延期した
- ウ 実験回数を減らした
- エ そのまま実行した



ライナス・ポーリング

アメリカの物理化学者。化学結合と分子構造の研究により、1954年にノーベル化学賞を受賞。また、核実験の反対運動につとめ、62年にノーベル平和賞が授与された。

Culver Pictures

Microsoft(R) Encarta(R) 2006. (C) 1993-2005 Microsoft Corporation. All rights reserved.

■ハードタック作戦

ソ連の核実験停止宣言に対し、アイゼンハワーは「巧みな策略で、私は本気だとは思わない」と述べ、英首相も「ソ連はいままでさんざん核実験をやってきたくせに」と述べました。

しかし、大統領科学諮問委員会は、「ハードタック作戦終了後に核実験停止協定を結ぶこと」を勧告しました。ノーベル平和賞委員会からは、シュバイツァーが「核実験の終結を求める声明」を出しました。

そこで、アイゼンハワーはソ連に対し「米国は、従来の政策を転換し、無条件の核実験停止にも合意する容易がある」と提案し、ソ連は、それを了承しました。

こうしてソ連の核実験反対を封じ込めた米国は、核実験阻止のためエニウエトクを訪れていたポーター米下院議員が帰国した直

後、秘密裏にエニウエトク環礁で核実験「ハードタック(乾パン)作戦」を開始しました。



HARDTACK

19:30 28 June 1958
(GMT)

Enewetak lagoon

核実験阻止のためエニウエトクへ向かっていた反核運動家は、ハワイ沖で逮捕され、懲役 60 日の判決を受けました。この報道に世界一周中の文化人類学者もエニウエトクに向けて進んで、危険海域で逮捕され、原子力委員会規則違反で懲役 2 年の判決を受けました。こうしたことで核実験の再開が米国市民に知られることになり、米国でも反核運動が展開されました。しかし、核実験は止まることなく、ハードタック作戦では 33 回の核実験が行われました。

【問題】

大統領科学諮問委員会の「ハードタック作戦終了後に核実験停止協定を結ぶこと」という勧告に対して、原子力委員会のストローズ委員長は「実験継続」を主張しました。

国連放射線影響委員会は「核実験による大気中の放射能の増加は人類の将来に有害である。現在の死の灰レベルで白血病による死者が年間 400 人から 2000 人に増加する。安全とする放射線の閾値はない。微量の放射線でも遺伝に有害な影響を与える」と報告しました。

では「従来の政策を転換する」としていたアイゼンハワーは、ハードタック作戦後、本当に核実験停止に政策を転換したと思いますか。

予想

- ア 転換した
- イ 転換しなかった
- ウ なんともいえない

■駆け込みラッシュ

8月、ハードタック作戦終了に当たり、テラーは「きれいな爆弾がめざましい進歩を遂げた」と報告しました。そこでアイゼンハワーも、「ソ連が核実験を再開せず、世界的な実験禁止交渉に同意するのであれば、大気圏内核実験を10月31日以降、1年間停止する」と発表しました。

英国も「ソ連が交渉開始後一年間核実験を再開しないという条件が満たされれば、英国も一年間停止する」と発表しました。こうして米英ソの三カ国が、一応核実験停止に初めて合意したのです。

しかし、それから10月末まで、各国は以前にも増して核実験を繰り返しました。「核実験停止までの駆け込みラッシュ」が始まりました。米国は、大西洋で3回、ネバダでは、ハードタック2作戦で37回の核実験を行い、英国は太平洋で4回、「核実験停止」を宣言していたソ連までが北極海で15回の核実験を2か月ほどの間に行ったのです。ソ連の水爆開発の最高責任者は、「核実験再開中止」を要請しましたが、フルシチョフ首相は「実験中止は国家に対する犯罪」と答えました。

このうちネバダでの10月22日の核実験では、風向きが変わったにもかかわらず、実験が実行されて、ロサンゼルスが通常の120倍の放射能に汚染されました。

8月18日、エニウエトク環礁で核実験が行われたのを最後に、その後ミクロネシアで核実験が行われることはありませんでした。それ以降は、ミクロネシアとハワイの中間にある無人のジョンストン島で行われたからです。

ミクロネシアで行われた核実験は67回で、そのうち16回が水

爆実験でした。これからの核実験の総威力は、広島型原爆の 7200 発分で、ネバダで 87 回行われた核実験のすべてを合わせたものよりも、100 倍も大きいものでした。

【問題】

それでは、10 月 31 日以降、核実験は停止されたのでしょうか。

予想

- ア 停止された
- イ 停止されなかった
- ウ なんともいえない



OPERATION HARDTACK 04:20 22 July 1958 (GMT) Bikini

<http://nuclearweaponarchive.org/>

■暗礁と薄明

10月31日、ジュネーブで行われた米英ソによる核実験停止会議は、ソ連が「核実験停止が優先課題」としたのに対し、米英が「核実験探知システムが優先する」と譲らず、暗礁に乗り上げました。翌日、ソ連はシベリアで小規模の核実験を行いましたが、ダレス国務長官は「ソ連は協定に違反していない」とし、核実験停止協定締結のため、実験停止を守ろうとしました。そして、それから核保有国は、核実験を自制したのです。そして、翌1959年には、大気圏内核実験が一度も行われませんでした。

しかし、前年の核実験ラッシュにより、地球は放射能に汚染されていました。米国では、小麦から許容量を超える放射性物質が検出され、ニューヨーク市の放射性物質の量は、5年前の7倍になっていました。「ニューズウィーク」誌は、放射性物質の危険性について特集を組み、「死の灰探知機」が発売されました。



HARDTACK2 3:00 30 October 1958 (GMT) NEVADA

ミクロネシアでは、マーシャル諸島行政府派遣の科学者が高等弁務官に「椰子の木が枯れたり、突然変異を起こしている。放射能汚染の懸念があり、解明を要求する」と要求しました。マーシ

ャル諸島の政治的リーダーのカブアは、米連邦地裁に、ロンゲラ
ップ住民の被爆補償 800 万ドルの請求訴訟をおこしましたが、
「カブアには請求権がない」として却下されました。そして、米
国は、ミクロネシアを核実験場からミサイル実験場に変更してい
きました。

【問題】

暫定的な核実験停止が続く中、日本政府は「核兵器の保有と使用」に関する統一見解を出しました。その内容は、どういうもの
だったと思いますか。

予想

- ア 保有も使用も人道に反する
- イ 保有は現状維持、使用は禁止
- ウ 保有も使用も可能
- エ そのほか

HARDTACK2

13:30 22 October

1958 (GMT)

NEVADA



■被爆国の核兵器

岸内閣の統一見解は「核兵器は防衛的兵器でもあり、防衛的核兵器の保有は違憲ではない。他に方法のない場合は、民族の独立を守るため核兵器の使用も違憲ではない」とするものでした。被爆国である日本が、どうして核兵器を肯定する見解を出したのでしょうか。

当時、日米安全保障条約の改定が問題となっていました。そこには、日本の軍事力強化と、「米軍の核持ち込みの際の事前協議なし」など問題があったのです。総評、原水協、社会党などは安保改定阻止国民会議を結成し、反対運動は近代日本史上最大の大衆

運動となっていました。

安保反対の請願者は1000万人を越え、国会は36万人のデモ隊に包囲されました。政府自民党は、国会に警官隊を導入して強行採決を行い、新安保条約は非民主的に成立しました。教員の勤務評定を導入したのも、この岸内閣でした。岸信介は戦後 A 級戦犯とし



て逮捕されましたが、不起訴となっていた人物でした。

ソ連は、「新安保条約の締結により、北方領土返還は困難になった」とコメントしました。

【問題】

核実験の凍結が続く中、ソ連は「ICBM の量産体制に入った」と公表し、アイゼンハワーも「我が国も量産体制に入っており、屈辱を感じることはない」と声明しました。英国でも「ミサイル開発、原爆貯蔵、水爆製造など着実に進行中」との白書が提出されていました。

核実験停止会議は膠着を続けており、米軍と原子力委員会は、地下核実験の再開を大統領に要求しました。

では、アイゼンハワーは、どう対応したと思いますか。

予想

- ア 地下核実験を再開した
- イ 大気圏内でも核実験を再開した
- ウ なにもしなかった
- エ 実験に反対し原子力委員会の権限を縮小した



■原子力委員会の権限縮小

軍部や原子力委員会の核実験再開の要求に対し、アイゼンハワーは「実験再開は、違法であり、米国が核実験再開の最初の国にはならない」と断言しました。

また彼は、放射線安全に対する責任を原子力委員会から公衆衛生局に移管して原子力委員会の権限を縮小しました。さらに、全米放射線防護委員会（NCRP）を設置し、NCRP は、原子力労働者とミルクの放射線最大許容量を国際基準の 2 倍に引き上げました。さらに、連邦放射線審議委員会（FRC）も設置しました。

アイゼンハワーは、ソ連に対して「大気圏内核実験の停止」を提案しました。これに対してソ連は「大気圏外や地下など、すべての核実験の禁止」を提案しました。

【問題】

アイゼンハワーが「一年間の核実験停止」を宣言してから、1年後、核実験は再開されたと思いますか。それとも、停止されたままだったでしょうか。

予想

- ア 再開された
- イ 停止されたまま



■揺り戻し

期限切れの2か月前、アイゼンハワーは「核実験一時停止を年末まで延長する」と発表し、英国もそれを支持しました。ソ連も「西側諸国が核実験を再開しない限り、我が国もいかなる核実験も行わない」と述べました。さらにフルシチョフ首相は国連で次のような完全軍縮案を提案しました。「今後四年間で世界各国が軍備全廃など全面的かつ完全な軍縮を実施するよう提案する。あらゆる核弾頭は破壊し、将来の生産も禁止、原子力は平和目的のみ使用とする」

こうして核実験停止は年末まで延長されましたが、すべての核保有国がそれに同意したわけではありませんでした。ドゴール仏大統領は、「フランスは、近く自前の核兵器を持つ。実験停止は核武装を減らすことにはならないから誤りだ」と宣言したのです。

フランスは、第二次中東戦争で英国・イスラエルとともにスエズ運河国有化を宣言したナーセルに対し、権益を守るため出兵しました。しかし、核武装していないフランスは、ソ連の「撤退しないならば核攻撃をする」という脅しに屈するしかありませんでした。そして、フランスは、核武装へ突き進んでいったのです。

【問題】

フルシチョフ首相が国連総会に提出した完全軍縮案は、採択されたのでしょうか。

予想

- ア 採択された
- イ 部分的に採択された
- ウ 否決された



安保闘争 1960

■南極条約

そのときの国連総会には、ソ連提案の「完全軍縮決議案」のほかに、「米英ソに核実験全面停止で合意を求める決議案」、「フランスの核実験に反対する決議案」、「核実験恒久禁止協定の速やかな締結と核実験を差し控えることを求める決議案」、「核兵器拡散防止決議案」などが提出されました。それらはすべて採択され、ソ連提出の「完全軍縮案」は、満場一致での採択でした。そして、南極を世界初の非核地帯とする南極条約も結ばれました。

【問題】

年末まで伸ばされた核実験一時停止は、その後どうなったと思いますか。

予想

- ア さらに延長された
- イ 解除された
- ウ そのほか

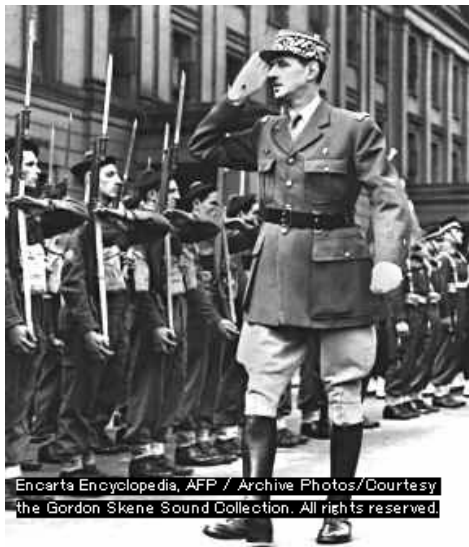


■圧力

12月末、米国は「これまで続けてきた核実験停止を終了する」と声明しました。アイゼンハワーには、軍と産業界が合わさって軍事産業の維持発展を推進することを目的とした軍産複合体からの「核実験再開」圧力がかかっていたのです。

英国は米国の宣言に同調することなく、「有意義な核実験停止会議継続中は、核実験を再開しない」と表明し、ソ連も「西側諸国が核実験を再開しない限り、ソ連も再開しない」と宣言しました。

しかし、1960年2月、核実験は再開されました。国連決議を無視して、フランスはサハラ砂漠で核実験を行いました。フランスの核実験では、「放射線の人体への影響を調べる」として、150人のアルジェリア人の囚人が意図的に被曝させられていました。モロッコは、フランスに抗議して国交断絶を通告しました。ソ連も遺憾の意をを表明し、米国は「核実験停止への期待を裏切るもの



だ」と強く非難しました。核実験に成功したドゴール大統領は「フランス万歳! 今よりフランスは誇り高い強国である」とする通達を出しました。

ド・ゴール大統領

【問題】

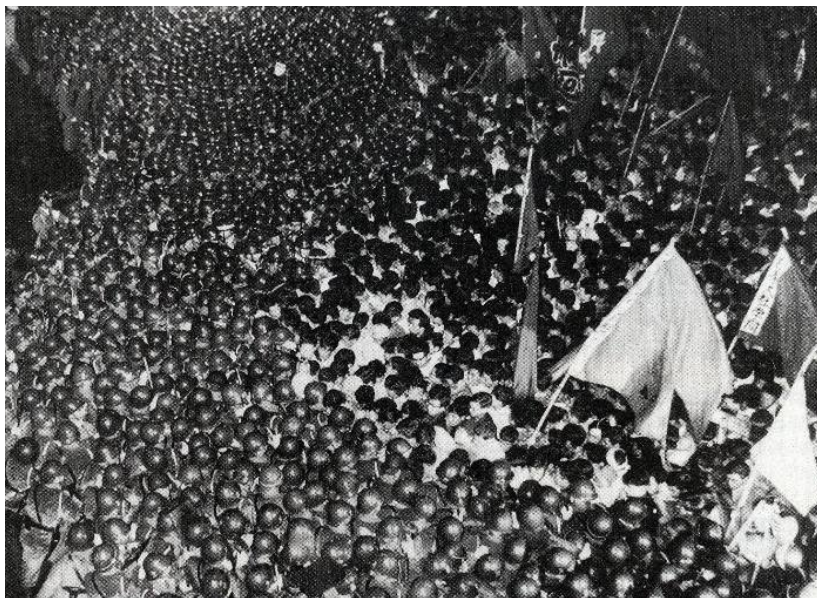
核実験再開への圧力を受けてアイゼンハワーは、「大気圏、高々度、海洋での核実験禁止、地下核実験は M4.75(20kt 以下)を限度とする」提案をソ連に示しました。ソ連は、「地下核実験の一時停止」を条件にアイゼンハワー提案の受け入れを表明しました。

では、米国はこのソ連案に同意したと思いますか。

予想

ア 同意しなかった

イ 同意した



強行採決の日、国会前で対峙する警察とデモ隊

www.cc.matsuyama-u.ac.jp/~tamura/annpodemo.htm

■譲歩できるものとできないもの

ソ連の提案をのめば、核実験再開はできなくなります。米国のマスコミは「ソ連提案による核実験停止は、ソ連を有利にする」と書き立て、原子力委員会や国防総省も「ソ連の善意に期待することは危険」として、強く反対しました。しかし、アイゼンハワーは、「やっかいごとを止めるには譲歩が必要」として、受け入れを表明し、英国もそれに賛成しました。これでようやく、米英ソ三国による核実験停止協定が結ばれる見通しができたのです。

反共強硬派のアイゼンハワーがソ連と協調することに驚いた米国軍部の一部は、核軍縮に備えて、「きれいな核爆弾」としての中性子爆弾への転換も考え始めました。でも、軍部なりの解決方法もありました。米国原子力潜水艦は、世界一周潜水と核ミサイル発射実験に成功し、「どこの海底からも核ミサイルを撃ち込める能力」を明示しました。また、原子力空母も進水しました。

米軍は偵察機をたびたびソ連に送っていました。ソ連は、その領空侵犯を何度となく抗議していました。しかし、5月1日、たまりかねたフルシチョフ首相は、偵察機の撃墜を命令し、偵察機はミサイルで打ち落とされました。乗組員は脱出の際、偵察機を破壊することができませんでした。アイゼンハワーはそのことを知りませんでした。そこで米国は「気象観測機が誤って撃墜された」と主張しました。そして、ソ連に偵察機の証拠を提示されてしまったのです。米国は「偵察機であった」ということは、認めたものの、今度は「ソ連は正当な空中査察を妨害した」と主張しました。

その2週間後に開かれたサミットで、フルシチョフ首相は、アイゼンハワーの謝罪を期待していました。しかし、かつての連合

国最高司令官であり、反共強硬派のアイゼンハワーは、謝罪をせず、フルシチョフ首相は、怒って帰国してしまったのです。「ニューヨークタイムズ」は、「これで軍縮と核実験停止の可能性が消え去った」と報じました。

アイゼンハワーは、その後も「私は核実験停止に固執する。人々の健康にこれ以上の心配を加えたくない」と言っていましたが、彼の任期は終わりを迎えました。副大統領のニクソンも核実験の推進派だったのです。

【問題】

この年の米大統領選挙は、核実験停止派のケネディと推進派のニクソンが争い、ケネディが当選しました。では、このときのケネディとニクソンの票差はどれくらいあったと思いますか。

予想

- | | |
|---------|-------|
| ア 圧倒的大差 | 2 倍以上 |
| イ 大差 | 1.5 倍 |
| ウ 小差 | 1.1 倍 |
| エ 僅差 | |



■軍産複合体

ケネディが大統領になりましたが、このときの票差はわずか0.1%の僅差だったのです。核実験停止派の大統領の誕生に、アイゼンハワーは「遅滞なく、必要な核実験を再開すべき」と注文をつけました。そして、退任演説でアイゼンハワーは「巨大な軍と軍需産業が連携する軍産複合体が民主政治におよぼす危険」に対して強い警告を発しました。

第2次世界大戦まで、アメリカは軍需産業というものを持つことがなかった。というのも、アメリカでは、時間的な余裕があったため（平時に）クワを作っていたものが、必要に応じて（戦時に）剣を作ることですますことが出来たからである。しかし現在では、一旦緩急になってから急に国防の備えをなすという危険を冒すわけにはいかなくなっている。その点、我々は大規模な恒久的な軍需産業を創設することを余儀なくされている。（一部略）我々は、アメリカの全会社の年間総所得を上回る額を、軍事費のために年々消費しているのである。

こうした大規模な軍事組織と巨大な軍需産業との結合という現象は、アメリカ史上かつてなかったものである。その全面的な影響力・・・経済的な政治的なさらには精神的な影響力までもが、あらゆる都市に、あらゆる州政府に、連邦政府のあらゆる官庁に認められる。我々としては、このような事態の進展をいかんとも避けられないものであることはよく解っている。だが、その恐るべき意味合いを理解しておくことを怠ってはならない。

（一部略）政府部内の色々な会議で、この軍産複合体が、意

識的にであれ無意識的にであれ、不当な勢力を獲得しないよう、我々としては警戒していなければならない。この勢力が誤って擡頭（＝台頭）し、破滅的な力をふるう可能性は、現に存在しているし、将来も存続し続けるであろう。

この軍産複合体の勢力をして、わが国民の自由や、民主的な過程を危殆ならしめることがあってはならない。何事も仕方のないこととしてはならない。警戒心を怠らぬ分別ある市民のみが、この国防上の巨大な産業と軍事の機構をして、わが国の平和的な手段と目的とに合致せしめ、安全と自由とを共に栄えしめることが出来るのである。

（アイゼンハワー「告別演説」 訳 斉藤眞）

ケネディが当選した年、国連は「植民地独立付与宣言」を採択しました。ミクロネシアは独立へ向かうのでしょうか。そして、核実験は？

（つづく）



Former U.S. President Dwight D. Eisenhower's Farewell Address to the American Nation on January 17, 1961 , made the representation on his critical concerns about dangers of the "military-industrial complex".

■日本

なぜボクは、米国の歴史を調べるのでしょうか。米国がすでに「実験」してくれているからです。過去を学ぶことで、日本の将来に対するたしかな予想を立てたいのです。過ちを繰り返すのでは、歴史から学んだことにはなりません。第二次大戦後、米国はナチスからも多くを学びましたから、ボクも必然的にナチスのことを調べることになります。米国は民主主義ゆえに多くの間違いを犯しました。しかし、同時に、民主主義ゆえに希望があるので。では、日本はどうでしょうか。

よく使っている百科事典の「エンカルタ」が新版になりました。今回、旧版に載っていた安保闘争の写真がなくなっていて、びっくり。意図的なものか、不必要と判断したのか・・・。

最近、職員会議で孤立することが多く、笑えます。うーん、大衆の支持を得られないのか・・・でも「旗を掲げること」(提案)は、続けよう。これは「運動」だから、きっと「時間」が必要。

勤務校は、7名の卒業生がいなくなって、在校生は3名だけ。もう学校とはいえないようなものです。ここでの生活を振り返ると、古内東子の「happy」という曲が流れてきました。そのままだなあ。

丸山秀一 kasetsu.maruyama@nifty.com

時間がすれ違って 前に進めなくて 少し焦るよね
君を知りたくて もっと知りたくって つながっていたい
君が思うより きっと私の心は小さくて
ほんのちいさな願いしかないよ
たとえばひとりのチューズデー そっちまでに会いに行きたくなって

他の誰でもなく君と ハッピーになりたいだけなの

きれいなもの見て かっこいい音楽聴いて 味わう感動を
君と分かち合って もっと大きくして 胸に飾りたい
君に会うまでは ずっと私の世界は小さくって
知らずにいた こんなぬくもりも
君が笑っているだけで こっちまでなんかうれしくなって
他の誰でもなく君と ハピネス感じたいだけなの

たとえばひとりのチューズデー
そっちまでに会いに行きたくなって
他の誰でもなく君と
ハッピーになりたいだけなの
君が笑っているだけで
こっちまでなんかうれしくなって
他の誰でもなく君と
ハピネス感じたいだけなの

Words by FRUUCHI TOKO

*As you just smile,
You make me smile as well.
I wanna feel happy with you, just you.*

定時制のみなさんの思い出に
そして さようなら

■典拠文献

- ・ グローバルヒバクシャ研究会『隠されたヒバクシャ 検証=裁きなきビキニ水爆被災』凱風社, 2005
- ・ 豊崎博光『マーシャル諸島 核の世紀』日本図書センター, 2005 上下巻で 1000 ページ以上の本
- ・ 島田興生『還らざる楽園 ビキニ被曝 40 年 核に蝕まれて』小学館, 1994
- ・ 第五福竜丸平和協会『写真でたどる第五福竜丸』第五福竜丸平和協会, 2004
- ・ 川崎昭一郎『第五福竜丸』岩波ブックレット, 2004
- ・ 安斎育郎ほか『ヒバクの島 マーシャルの証言』かもがわ出版, 2004
- ・ レオン=クルチコフスキー 中元伸幸訳『エセルとジュリアス』未来社, 1985, ローゼンバーグ夫妻処刑前の 6 時間を戯曲化したもの。
- ・ アンドリュウ=タリー, 小鷹信光ほか訳『FBI』早川文庫, 1977, ローゼンバーグ事件を誇らしげに書いた「サンタフェの地図」がある。
- ・ F=X=ブッシュ, 庄司浅水訳「ローゼンバーグ事件」『世界ノンフィクション全集 15』筑摩書房, 1961
- ・ ハワード=ジン, 猿谷要監修『民衆のアメリカ史』TBS ブリタニカ, 1993
- ・ 武谷三男『原水爆実験』岩波新書, 1957
- ・ 武谷三男編『安全性の考え方』岩波新書, 1967
- ・ 武谷三男『死の灰』岩波新書, 1951
- ・ ラルフ=E=ラップ, 八木勇訳『福竜丸』みすず書房, 1958
- ・ 矢内原忠雄『南洋群島の研究』岩波書店, 1938
ほとんどの本の「底本」。
- ・ ロナルド=ウェルチ, 斉藤数衛訳『暗黒の海に挑む〈マゼラン〉』学習研究社, 1971, 原著は 1955

- ・ 斉藤達雄『ミクロネシア』ずずさわ書店, 1975
- ・ ダンカン＝カースルレイ, 生田滋訳『図説 探検の世界史 1 大航海時代』集英社, 1975, 原著は1971発行。
- ・ 『日本植民地史 3』別冊一億人の昭和史, 毎日新聞社, 1978
- ・ 矢野暢『日本の南洋史観』中公新書, 1979
- ・ 桜井均『ミクロネシア・リポート 非核宣言の島々から』日本放送出版協会, 1981
- ・ 小林泉『ミクロネシアの小さな国々』中公新書, 1982
- ・ 家長三郎『戦争責任』岩波書店, 1985
- ・ 原康史『第一次世界大戦と日本 激録・日本大戦争 25』東京スポーツ新聞社, 1987
- ・ 本多勝一『マゼランが来た』朝日新聞社, 1989
- ・ マーク＝R＝ピーティ「日本植民地支配下のミクロネシア」『近代日本と植民地 1 植民地帝国日本』岩波書店, 1992
- ・ 小林泉『アメリカ極秘文書と信託統治の終焉 ソロモン報告・ミクロネシアの独立』東信堂, 1994
- ・ 平間洋一『第一次世界大戦と日本海軍 外交と軍事の接続』慶應義塾大学出版会, 1998
- ・ 矢崎幸生『ミクロネシア信託統治の研究』御茶ノ水書房, 1999
- ・ 中島洋『サイパン・グアム 光と影の博物誌』現代書館, 2003
- ・ 板倉聖宣ほか『理科教育史資料』東京法令出版, 1986
- ・ 成瀬治ほか監修『山川 世界史総合図録』山川出版社, 1994
- ・ 『プロムナード世界史』浜島書店, 1999
- ・ 「世界大百科事典 第二版 CD-ROM」平凡社
- ・ 「岩波 日本史事典 CD-ROM」システムソフト
- ・ 「スーパーニッポニカ 2003DVD」小学館

- 「エンカルタ総合百科 2006DVD」 マイクロソフト
- 中野文庫 植民地法令
<http://www.geocities.jp/nakanolib/etc/colony/nanyo.htm>
- 南洋庁関連写真
http://www.bunsei.co.jp/NRoss/6_southseaagency.htm
- 岩木みどり「南洋群島における植民地時代の日本語教育年表」
<http://www.age.ne.jp/x/oswcjlr/longzemi/micronesiatimeline.htm>
- 南洋群島 <http://www.kaho.biz/main/nanyo.html>
- 平高史也「南洋群島における日本語教育」慶応大学講義
http://gc.sfc.keio.ac.jp/class/2004_14621/slides/08/3.html
- 国立公文書館 <http://www.archives.go.jp/>
- グアム政府観光局
<http://www.i-loveguam.com/main/top.html>
- パラオ アンガウル州立自然公園
<http://www.ows-npo.org/angaur/index.html>
- パラオ政府観光局
<http://www.palau.or.jp/index.html>
- マリアナ政府観光局
<http://japan.mymarianas.com/japanese/index.html>
- マーシャル諸島政府観光局
<http://www.visitmarshallislands.com/main.htm>
- ミクロネシア連邦政府観光局
http://www.visit-micronesia.fm/index_j.htm
- ミクロネシア はるかなる歩みの歳月
http://www.yashinomi.to/micsem_j/photos.htm
- Flags Of The World

<http://flagspot.net/flags/index.html> 旗の図版はここから

- <http://www.guam-online.com>
- <http://www.saipan-press.com>
- 東京大学東洋文化研究所
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/documents/texts/pw/19110713.T1J.html>
- 公学校に見る全員教育
<http://www.bl.mmtr.or.jp/~idu230/his/his/bunken/idumi/syuron/2-2.htm>
- 読売新聞 1921.3.17(大正 10) ヤップ海電問題
http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=00104499&TYPE=HTML_FILE&POS=1&TOP_METAID=00104499
- 宮内庁「天皇陛下のお言葉」
<http://www.kunaicho.go.jp/gaikoku/gaikoku-h17saipan.html>
- Bikini Atoll <http://www.bikiniatoll.com/home.html>
- The Nuclear Weapon Archive
<http://nuclearweaponarchive.org/Home.html>
- Jealous Gay
http://homepage.mac.com/ehara_gen/jealous_gay/index.html
- Rosenbergtrial.org www.rosenbergtrial.org/
- Campaign for Nuclear Disarmament
<http://www.cnduk.org/index.html>
-
-

■参考文献

- 島田啓三『冒険ダン吉』少年倶楽部文庫，講談社，1976，もともとは

1933～39 まで『少年倶楽部』に連鎖されていたもの。

- ・ 船坂弘『秘話パラオ戦記』光人社 NF 文庫, 2000, もとは『玉砕戦の孤島に大義はなかった』1977
- ・ 板倉聖宣ほか『日本の戦争の歴史』仮説社, 1989
- ・ 牟田清『太平洋諸島ガイド 南の島の昔と今』古今書院, 1991
- ・ 大野俊『観光コースでないグアム・サイパン』高文研, 2001
- ・ 三枝篤夫『マーシャルの奇跡 マーシャルの大旱魃を救った日本人たち』蝸牛新社, 2002
- ・ 西牟田晴『僕が見た大日本帝国』情報センター, 2005
- ・ 小此木真三郎『フレームアップ』岩波新書, 1983
- ・ 堀江則雄『もう一つのワシントン報道』未来社, 1985
- ・ 第五福竜丸展示館 <http://d5f.org/>
- ・ DVD『アトミック・カフェ』竹書房
- ・ DVD『第五福竜丸』角川エンターティメント
- ・ DVD『ゴジラ』東宝
- ・ DVD『ゴジラ 1984』東宝
- ・ ビデオ『放射能 X』ワーナー・ホーム・ビデオ
- ・ 原水禁 <http://www.gensuikin.org/>

